

11月

新着本の紹介



青字は児童書

書名	著者名	内容
隣はシリアルキラー	中山 七里	「すぐ隣の部屋で人体を解体しているなど、あり得るはずがない」連続バラバラ殺人事件の犯人は、隣人?怖すぎて眠れない。徹夜必至のホラーミステリ!
風よ あらしよ	村山 由佳	明治・大正を駆け抜けた、アナキストで婦人解放運動家の伊藤野枝。生涯で3人の男と〈結婚〉、7人の子を産み、関東大震災後に憲兵隊の甘粕正彦らの手により虐殺される――。
汚れた手をそこで拭かない	芦沢 央	平穏に夏休みを終えたい小学校教諭、認知症の妻を傷つけない夫。元不倫相手を見返したい料理研究家…。気付かぬうちにお金の魔の手はやってきて…。
スター	朝井 リョウ	国民的スターって、今、いないよな。…… いや、もう、いらぬのかも。誰もが発信者となった今、プロとアマチュアの境界線は消えた。新時代の「スター」は誰だ。
始まりの木	夏川 草介	藤崎千佳は、東京にある国立東々大学の学生である。所属は文学部で、専攻は民俗学。指導教官である古屋神寺郎は、足が悪いことをものともせず日本国中にフィールドワークへ出かける、北から南へ練り歩くフィールドワークを通して、“現代日本人の失ったもの”を問いかけてゆく。学問と旅をめぐる、不思議な冒険が、始まる。
ワカタケル	池澤 夏樹	時は5世紀、言葉は鳥や獣、草木たちにも通じていた。歯向かう豪族たちや魍魎魍魎を力でねじふせ、國を束ねるワカタケル大王(雄略天皇)。樹々の合間から神が囁き、女たちは夢の予言で荒ぶる王を制御する。書き言葉の用意のない時代、思いを伝える歌と不思議な伝説、そして残された古墳の遺物や中国の史書……。

日没	桐野 夏生	小説家・マッツ夢井のもとに届いた一通の手紙。それは「文化文芸倫理向上委員会」と名乗る政府組織からの召喚状だった。出頭先に向かった彼女は、断崖に建つ海辺の療養所へと収容される。「社会に適応した小説」を書けと命ずる所長。終わりの見えない軟禁の悪夢。「更生」との孤独な闘いの行く末は――。
この気持ちもいつか忘れる	住野 よる	退屈な日常に絶望する高校生のカヤは、ある日、爪と目しか見えない異世界の少女と出会う。互いの世界のシンクロに気づいた2人は、ある実験を始め…。
ねこはるすばん	町田 尚子	人間が出かけていって、ねこはるすばん。と思いきや、ねこはタンスの奥から、こっそりねこの街にくりだした！ カフェに行ったり、ヘアサロンに行ったり、映画を観たりと、ねこの街を満喫して…。

【お知らせ】

今月（11月）から新しい雑誌を配架します！

■NHKテレビテキスト「囲碁講座」 ■「すてきにハンドメイド」

■「ESSE」

（居心地よく暮らせる部屋づくり 特集結成25周年 V6 スペシャルインタビュー）
ぜひ、ご覧ください！！

